

しがじん VOL.28 2023.5

# SHIGAJIN

全障研滋賀支部発行 TAKE FREE!



「新連載 今日もお仕事いってきます」

「学習会報告 発達保障をみんなで」

新入会・会員更新のお願い サークル活動報告

## こんにちは 全障研滋賀支部です !

“しがじん”はみんなのねがいをつなげるために、全国障害者問題研究会（全障研）滋賀支部が発行しています。障害のある人に関わる人たちみんなのつながりをつくり、ひろげていきたいというねがいから生まれました。全障研では、障害者や家族の願いを大切に、すべての人の発達を保障するため研究活動に主体的に参加しています。

### 2023年度 事務局体制

|       |  |
|-------|--|
| 支部長   | 白石 恵理子   |
| 研究部長  | 黒田 吉孝  |
| 全国委員  | 松島 明日香   |
| 事務局長  | 長友 志航  |
| 事務局次長 | 森原 都、上神 宗久   |
| 事務局   | 能勢 ゆかり、大師 観世、栗本 葉子、浦嶋 真由美、別所 尚子、藤井 美沙子、山田 彩香、佐々木 健太、仁村 菜月子 |
| 協力員   | 黒田 恵美子、赤星 香早、望月 ふみ、望月 伸明、竹下 光                              |

### 入会のご案内

全障研の活動は、会員の会費（年会費3000円）に支えられています。会員になっていただくと、全障研新聞などの出版物が届くほか、全障研主催の学習会に会員価格で参加していただくことができます。

ぜひ、一緒に学びあいませんか。

#### ★入会の申し込み

メールの件名に「全障研入会申込」とご記入の上、

①お名前 ②「しがじん」などの送付先 ③連絡先 ④所属などをお知らせください。

会費納入方法は後日相談とします。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

sunaba.naga@gmail.com（事務局長 長友志航）



### ……新事務局員紹介……

大津市の障害福祉施設に働いている藤井です。この度、全障研事務局に入ることになりました。普段は成人期の方たちと過ごしているため、学校の実践などは知らない事が多く、たくさん勉強させていただいています。コロナ禍ということもあり、まだ直接お会いできていない方も多いため、まずは皆さんに会う日を楽しみに！頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



## 発達保障をみんなで ～私のねがい、みんなのねがい～

### 実践・職場づくり編



3月26日、滋賀大学教育学部にてオンラインとのハイブリッド形式で学習会を行いました。保育士、教員、放デイ職員、作業所職員など様々な職場からの参加がありました。

前半は保育と教育の現場からの話題提供から始まりました。若手や中堅、それぞれの立場からどのように職場で発達保障実践を進めていくかという内容でした。話題提供をもとにグループトークをしました。グループトークの一部をご紹介します。Aグループでは、必ずしも「若い人が深く考えてない」わけではなく、ノウハウや技法、知識を詰め込むことに必死になっているという意見が出ました。その一方、ベテランの方も教えなきゃと焦り、答えを先に言おうとしてしまうという意見もありました。子どもの思いを深く読み取る力を作るために、互いに意見を交わし合える関係づくり、先達者の本を読み合わせて意見を自由に述べ合い、気づきやお互いの見方のズレを発見するだけでも、理解し合う第一歩なんだと発言がありました。どの職場でも息苦しさや評価にばかり目を奪われてしまいがちだけれど、職員室で一日一回でも子どものことを話題にして響き会える職場づくりが大切やね、と締めくくられました。

まとめとして、「みんなのねがい」編集長で、特別支援学校教員の塚田直地さんからお話をいただきました。塚田さんの生活や職場での経験から、発達保障とはどういうことなのかということ具体的なエピソードからお話していただきました。ご自身が働いておられる盲学校での実践では、映像を交えながら、日々の様子を紹介していただきました。新しい世界に不安がいっぱいの子どもたちに丁寧に寄り添いながら、好きなことを一緒に見つけ、たっぷりと楽しんでいく実践には、参加者からも「感動した」という声が上がりました。

最後のまとめの中で、「発達保障実践とは、相手の行動や言動に意味を見つけ、価値をつけていくこと」というお話がありました。子どもたちの小さな発信にも丁寧に気持ちを向けていく様子は映像の中でも語られていましたが、それは職場の大人同士のかかわりにも同じことが言えると思います。グループディスカッションの中でも「特別な実践ばかりを評価するのではなく、日ごろの何気ないかかわりにも、意味を見つけ、認め合っていけたら」という意見がありました。多忙な業務の中でも、相手に寄り添うこと、大人も子どももみんな安心して過ごせることの大切さを改めて実感する機会になりました。

#### ・・・感想をいただきました！・・・

職場での状況や悩みを共有できたこと嬉しかったです。教員同士(人と人)の対話は大切だとわかりつつ、自分自身の話すことへの苦手意識があったり、知らず知らずに人を選んでしまっていたりしているかもしれないなあと思いました。相手を知ること、自分を知ってもらうこと、そこから一緒につくっていくことをもっとやっていけたら…と元気をもらえました。

塚田先生のお話は、“発達保障ってこういうことじゃないかな”ということを知りやすく教えていただけた気がします。わかっているようでわかっていないことも多かったので…。うまくいえないですが、次からは、人にきかれても「こういうことかも」と話せるような気がします😊



# 今日もお仕事 いってきます

No.1



|      |   |
|------|---|
| 事業所名 | おうみや  |
| 所在地  | 滋賀県近江八幡市宇津呂町72  |
| 連絡先  | TEL 0748-36-3970<br>FAX 0748-36-3971                              |
| 事業内容 | 就労継続支援B型事業<br>パン・クッキー等製造、販売<br>城郭資料館（接客、喫茶、清掃）<br>店舗「おうみやカフェ」の営業等 |
| 開所時間 | 月～金 9:00～15:30<br>(月1回土曜日) 9:00～13:00<br>*行事による変更あり               |

全障研滋賀支部では、障害のある人が学校を卒業した後、元気にたくましく働く姿を通して、学齢期、青年・成人期に大事にしたいことや課題について考えたいと思います。今回は近江八幡市の「おうみや」で働く仲間の様子を紹介します。高等部時代の担任の先生やご家族にもインタビューしました。次号以降もいろいろなお仕事の様子を紹介していきます！

おうみやは平成22年4月に、法人内の別事業所でそれまで行っていた、パン・製菓事業を独立させ、就労継続支援事業B型事業所として開所しました。一般企業で働くことが難しいけれど、「働きたい」「お給料が欲しい」という願いを持った障害のある人たちの働く場、一般就労への訓練の場となっています。

「おうみや」では、「働く」ことを中心に活動していて、パン・クッキーの製造や、地域に販売・納品に出掛けています。その他にも、安土駅のトイレ清掃、給食センターの清掃、下請け作業など、地域とつながりのある作業を通じて、社会参加をしていくことを大切にしています。また高い給料が欲しいという願いに応えるため、最低賃金の3分の1の給料を目指しています。法人内で事業所の機能分担をしていて、「おうみや」で働く自信や体力がついて、より高い給料を目指す利用者には「社会的事業所ゆう」（雇用契約）へ挑戦することができます。



## ..こんな風に働いています..

とうまさんは高校を卒業後、おうみやに通所を開始しました。はじめの頃は、慣れない環境、初めての仕事に緊張しながらも、「早く仕事を覚えたい」と一生懸命頑張っていました。色々な仕事をしてみたいと希望があったので、毎日違う仕事に取り組むことになりました。

まず、製菓の仕事です。製菓では主にパンやクッキーを製造していて、初めて取り組むとうまさんは、立ち仕事に慣れることから始まりました。洗い物は中腰になることが多く、初めの頃は、腰が痛く途中で作業をやめてしまうことがありましたが、回数を重ねるごとに体力がついていきました。今では、重い機械を使ってクッキーの生地作りに取り組んでいます。鉄板掃除やクッキーの成形にも、積極的に取り組んでいて、新人さんが入ると、「僕が教えてあげるよ」と丁寧に分かりやすく

説明をしています。他にも、製菓で作った商品をコミセンや地域の施設に移動販売する、販売の仕事にも取り組んでいます。

販売の仕事は、販売準備から始まります。厨房から袋に入って出てくるパンに名前と値段のシールを貼る、お釣りはちゃんと入っているか確認、次回の販売の日程を確認して記入する…などたくさんの準備があります。人の様子をいつも見ているとうまさんは、いつの間にか流れをすべて覚えていて「お金の袋にアルコールとお釣りのトレイを入れといたよ。」「次回の販売の紙を数えて挟んだよ。」など確認して、みんながうっかり忘れていたことをスマートにフォローしてくれます。

販売先ではクッキーがぎっしり詰まった箱を持ったり、電卓を使ってお金の計算をしたり、あいさつをするなど、丁寧に仕事をしています。販売から帰ると、「今日の僕のコースはクッキーをたくさん売ったよ！そっちのコースは？」と別のコースの仲間に声をかけ、たくさん売れたことを一緒に喜び、「たくさん売ったから、また製菓でもがんばってクッキーを作らなくちゃ。」と笑顔で次の仕事への意欲を見せています。

おうみやで体力がついてきたので、製菓・販売作業の他にも、給食センターのメンテナンス業務にも取り組むことになりました。仕事内容は掃除機かけやゴミ庫の掃除などとても力がある仕事です。メンテナンスを始めた頃は、休憩時間が待ち遠しい様子がみられ、帰りの車の中でうとうとする姿も見られました。少しずつ力がついてきて今では重いものをすすんで運んでいます。そんな色々な仕事を任せられているとうまさんも、おうみやにきて3年目のベテランとなり、仕事に対するの責任感もどんどん大きくなっています。仕事以外にも、自治会活動では役員としてみんなを引っ張っています。おうみやのことが大好きで、みんなのリーダー的存在になりたいと、日々笑顔で楽しく仕事に取り組んでいます。これからのさらなるご活躍に期待しています。



## 養護学校の担任の先生から

県内養護学校の高等部では、1年生から、いろんな形での実習が始まります。でも、やはり、卒業を見据えた3年生の職場体験実習は特別です。普段は、昼休みに「嵐」の歌をクラスみんなと歌い踊っていたとうまさんも、卒後を意識した実習を前に顔つきが変わってきました。

そうした、不安いっぱい迎えた実習。初めはとても緊張していたとうまさんですが、暖かく迎えていただいた職員さんやいろんなことを教えてくれる先輩方に囲まれて、少ししんどいけど、とても楽しい実習になったようです。



そんな実習を経て、戻ってきたとうまさんは、クラスでも大きな変化を見せていました。気持ちが乗らない時には気後れしていたような場面でも、期待されている自分への責任感から積極的に行動できるようになってきました。友だち集団の中でも、自分がしたいだけではない、周囲への気配りができる文字通りのリーダーになっていきました。それは、1年生の時の担任の先生と話してもとても大きな変化でした。こうした成長は、学校の中だけでは達成しづらいことです。学校と事業所が一緒になって生徒の生きがいを考えていく、これからもこうした取り組みを大事にしていくことができればと思います。

## お母さんから

「いってきまあ〜す！！」トウマは毎朝 元気一杯に作業所に出かけて行きます。年末年始や連休明けなど、私や兄弟たちは「明日から仕事か〜(^\_^;)」とってしまいますが、トウマは「明日から仕事に行ける♪」と喜んでいきます。働ける事がうれしくてたまらない様子を見ていると、我が子ながら尊敬してしまうほどです。これが本来の労働の意義なのか、と感じています。こんなに楽しくお仕事をさせていただいている おみやの職員や仲間の皆さまには本当に感謝しています。

ただ、これだけ毎日頑張っているのに、本人の労働に対しての賃金が安すぎると感じてしまうのは親のわがままでしょうか？どこの作業所も厳しい条件の中で運営されており、その中で賃金を捻出してくださっていると思います。一生懸命に働くわが子や、他の障害のある方たちの頑張りが正当に評価される社会になっていくとよいな、と感じています。





## サークル活動報告 マリーゴールドの会



マリーゴールドの会（通称：MG会）はマリーゴールドの会（通称：MG会）の紹介です。MG会では成人期障害者への支援をしているメンバーが、リモートで活動しています。

9月例会では、Mさん（30代後半のダウン症の女性）について話しました。おおぎの里に来るようになって9年経ちました。

高等部卒業後通所していた日中支援施設に10年間通っていたのですが、ある時から（自主通所なので）電車から降りられなくなるなど、だんだん通うことが困難になりました。仲良かった利用者や職員が就職や異動で目の前から居なくなり、その頃からひどく落ち込んでいるようにさえ見えました。お家では、イライラしたり、言葉数が急速に減ったりしました。当時のご本人やご家族の苦しみは、どれほど辛いものだったかと考えます。

しかしその後、半年間、ヘルプセンターのスタッフが交代で昼間のヘルプを組んでくれました。本人の「それまでのしんどかった心を休められるように」寄り添う支援を心がけられました。ゆっくり湖岸を散歩したり、水辺にポチャンと輪っかのできる石投げをして笑い合ったり、ゲームセンターでエアホッケーをしたり…。気持ちを引き出す支援を重ねていくことで笑顔も増え、人への信頼や以前の気持ちを表現するようにと回復していきました。

やがて、おおぎの里に来所。すぐに意思表示をすることは難しかったのですが、徐々に新しいその集団にも慣れ、今では音楽、ドライブ、散歩、ゲーム、絵画活動など幅広く楽しみを見つけています。以前の施設はお仕事を中心だったこともあり、本人自身もできるかできないか、速くすることにとらわれてしんどくなるころがありました。他の言葉数の多い利用者に先に指示をされ、自分らしく過ごすことができなくなってしまうことも数多くありました。

今でも大きな声で言い争う利用者がいると、とても怖がられます。その時は場所を変え、静かに職員が寄り添います。逆に少人数でほっこりした雰囲気ときは、自分から職員の肩をトントンと叩いて「〇〇する」と窓拭きやほうきとちりとりで掃くなど、以前の施設で毎日していた掃除の力を発揮されます。みんなに「きれいになったわ」「ありがとうね」と言われるとニッコリ。

ただ最近では家に帰ると、これまでサッとできたことをやらなくなったりすることもあるそうです。加齢とともに、できたことができなくなる姿に家族も不安になられています。それでも、おおぎの里で長距離散歩6キロ余りを終えて最後のテープをきる瞬間の笑顔は、変わらない彼女の姿そのものです。

「Mのできないことを数えるより、できていること、好きなことが周りの人に伝えられることが生活を豊かにするんですね」。ご家族もグループホームへの希望を持っておられますが、これから先も彼女が望む生活づくりを関係者みんなで支えていきたいと考えています。

（くり あんこ）

PONTAの  
18 ゆるい日々

これからお母さん帰るのが遅くなるから、お父さんが帰ってくるまでPonta一人になるけど大丈夫？

母、転職しました

大丈夫！ボク一人じゃないから！

ん？一人じゃない？ええ？ホラー？

だって、相葉くんも松澤も大野くんもいてくれるから

姉の友人から大量の缶グッズをゆずってもらいました

PONTAの  
19 ゆるい日々

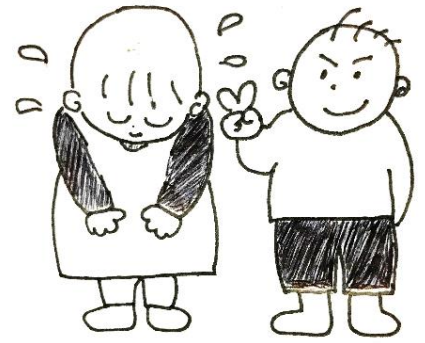
ただいまー！Ponta-？

今日、すごい雨降ってたけど帰道大丈夫やった？

え、でも服とかリュックとかぬれんかった？

ボクを誰だと思ってるの！！

…失礼しました



母 ぽんた(21)

Pontaは、21歳のダウン症の男子です。三人きょうだいの末っ子。

久しぶりに母と姉と外食に行きました。Pontaのリクエスト通り、からあげとケーキをたくさん食べ、車の中では大熱唱して、大満足の日。その日は何を聞かれても「サイコーや！」とニコニコでした。

..あどがき..

編集担当のにむらです。2023年、ついに花粉症デビューしました。想像の3倍しんどいです\(@o@)/



◎今回の表紙 「春が来た」

唐崎やよい作業所 福井 美咲さん

いつも春が訪ねると楽しくてお喋りになり、そんな思いを色々な色にのせながら、カラフルな作品に仕上げていきます。

絵の中は作者のわくわくとときめきでいっぱいです。作品が完成すると「できた！」ととびっきりの笑顔で見せてくれます。